

(社)日本建築学会 近畿支部
2009年度第2回空気環境部会議事録(案)

日時：2009年7月7日 15:00~18:15

場所：日本建築学会近畿支部

出席者：東(賢)、井上、イム、甲谷、竹村、辻、檜崎、西岡、橋本、藤田、山中(主査)、
桃井(幹事)、東(実)(幹事、記録)

資料：・議事次第	資料 2-1
・2009年度第1回空気環境部会議事録(案)	資料 2-2
・シックハウス対策 24時間換気義務化以降のシックハウス対策と換気の現状 (小林委員、イム委員、竹村委員)	資料 1-5
・シックハウス対策としての24時間換気システムの現状 (小林委員、イム委員、竹村委員)	資料 1-6
・テストチャンパー実験及びCFD解析によるMedium Density Fiberboardに おける物質伝達率が放散速度に与える影響の検討(山中主査)	資料 5-5
・第18回空気シンポジウム(東北)住宅用厨房の空気環境に関する 最新の研究成果と厨房機器(甲谷委員)	資料 2-3
・特集インフルエンザと環境衛生(山中主査)	資料 2-4

議事：

- ・ 前回議事録案(2009年度第1回)が承認された。

1. 今年度シンポジウムの企画について

- ・ 開催日程についての検討。
- ・ 昨年度から継続している家具に関する話題提供の内容を生かしてはどうか。
- ・ 実務にまつわる話を部会員で分担できないか。
- ・ 自主認定基準をもつ日本家具工業連合会・家具メーカー等に講演依頼は可能か。
- ・ 国民生活センター(昨年度の情報提供資料)はどうか。
- ・ ラージチャンパー法など、測定法等の内容も入れたい。
- ・ テーマを家具に絞り、対策としての換気を盛り込むのはどうか。
- ・ シックハウス関連の調停員からの話題提供 事例を出しにくいのでは？

以上の議論をもとに「家具と換気」をテーマに、シンポジウムの内容を検討した結果、
実態、発生源対策、測定法、換気による対策、という内容で準備を進めることとした。

テーマ「家具によるシックハウス問題の現状と対策(仮題)」

- 1)家具による空気汚染に関する実態(実務の立場から)【橋本委員・阿部委員】
- 2)家具による空気汚染に関する実態(消費者の立場から)【国民生活センター】[山中主査]
- 3)家具メーカーの取り組み(自主基準等)【家具メーカー】[監事]
- 4)測定法の企画と運用実態【住宅メーカー(ダイワハウス)】[東委員]
- 5)換気による対策【換気研究者(施策面も含めて)】[甲谷委員・山中主査]

*【 】: 話題提供者、[]: 調整担当者

開催日：3月3日、8日、9日 のいずれかとする。

- ・ 次回部会にて、12月の会告に向けて詳細を検討する。

2. 委員からの話題提供（竹村委員）(山中主査)

- ・資料 5-5 テストチャンバー実験及び CFD 解析による Medium Density Fiberboard における物質伝達率が放散速度に与える影響の検討 は次回持ち越し
- ・資料 1-5 シックハウス対策 24 時間換気義務化以降のシックハウス対策と換気の現状，資料 1-6 シックハウス対策としての 24 時間換気システムの現状についての紹介があり、以下の議論があった。
 - ・多数室をつないで換気する場合は下流室の汚染につながるのでダクト換気が有効。
 - ・平衡濃度にまだ達していない条件下での結果か。
 - ・換気量は、各実験条件とも同一か？
 - ・結果に関する理論・根拠については、別途資料を用意して次回に議論する。
 - ・24 時間機械換気は実際に 8 割もの居住者が稼働させているのか？
 - ・換気扇を止めることができるのが問題、ブレーカーに直結しないのか？
 - ・中間期には窓を開放するので、止めるという選択肢も必要？
 - ・熱交換換気ユニット(Fig7.2)は実際には 2 割程度漏れる（圧力差があると顕著）。
 - ・三種換気で換気量をクリアできれば一種換気を入れるメリットはない。
 - ・熱交換システムは事務所ビルでの採用は容易（もともとダクトティングするので熱交換器を設置するのみ）だが、住宅の場合はダクトから追加するのでコスト面で導入が避けられる傾向にある。
- ・資料 2-4 に基づき、特集インフルエンザと環境衛生の紹介があり、以下の概要説明と議論があった。
 - ・エアロゾルの中にいくつかのウィルスが付着して浮遊している。
 - ・インフルエンザの世界的流行の歴史の紹介。香港インフルエンザ流行以降に複数のインフルエンザが同時に流行している。
 - ・感染には飛沫以外に飛沫核感染がある。
 - ・ウィルスの増殖がピーク後に減少するのはなぜか。
 - ・増殖の減少には人体の発熱が関係しているのではないか。
- ・資料 2-3 に基づき、第 18 回空気シンポジウム（東北）住宅用厨房の空気環境に関する最新の研究成果と厨房機器への参加と広報に関する依頼があった。

3. その他

- ・建築学会本部より、次年度建築学会大会のテーマの希望の有無の問い合わせがあった。
- ・次回部会までに、各担当者はシンポジウムのパネリストと調整を行っておく。

次回 日時：未定 場所：日本建築学会近畿支部

内容：シンポジウム開催にむけての検討、
家具の化学物質，換気に関する話題提供等

以上

（記録 東 実千代）